２０２３年１１月１９日（聖霊降臨後第２５主日、特定２８、A 年）
牧師メッセージ
「信頼への応答の先に」
（マタイによる福音書 25:14-15,19-29）

司祭ヨセフ太田信三

主人はしもべに財産を託し、その用い方について一切指示をせぬまま旅にでかけます。主人は僕たちにとてつもない金額を預けました。一タラントンは六千日分の賃金です。五タラントン預けられた僕は、生涯収入を遥かに超える額を預けられたことになります。それほどの金額を指示もなく僕の裁量に任せたのは、それほどに主人が僕を信頼していたからです。主人は各自の力に応じて異なる額を託しました。それは公平さを欠いているのではなく、むしろ「神は超えられない試練は与えられない（1 コリ 10:13）」という聖句にある通り、主人が僕をよくよく知っておられることの表れです。

さて、五タラントン預けられた僕は、それを元手に商売をし、なんとさらに五タラントンをもうけました。そして主人に対し、「五タラントンお預けになりましたが、ほかに五タラントンもうけました」と報告しました。二タラントンを任された僕も同じでした。この二人の僕は、主人が自分たちのことを信頼して財産を預けたという事実に立って行動しました。彼らは、とてつもない金額を指示もなく任せてくれた主人の信頼を感じることができていたのです。その信頼の大きさを理解した僕は、もうけることができるのです。この二人への「忠実な良い僕だ」というねぎらいの言葉は、もうけた金額に関係なく全く同じです。この言葉に表れているように、主人は金額の大小を問題にするのではなく、主人の信頼への応答を喜んだのです。

しかし、一タラントンを預けられた僕は穴を掘り、主人の金を埋めて隠しました。たしかにそれは安全な方法で、当時は穴に預かりものを隠せば、それが盗まれても賠償する義務もありませんでした。この僕は、「主人の金」を少しも減らさないことに心を注ぎ、たとえそれが失われたとしても、自分が責められることがないようにしたのです。なぜなら彼は、主人が自分にタラントンを預けてくれた信頼に気付くことができなかったからです。この僕の報告には「預けた」という言葉が出てきません。主人の信頼を理解できなかった彼には、主人がただ「厳しい人」と映っています。主人を恐れ、信頼に応えようとしなかったこの僕を、主人は「怠け者の悪い僕」と呼びます。彼は、他の二人のように主人からますます信頼される「忠実な僕」にはなれませんでした。

今日の福音は、「天の国はまた次のようにたとえられる。」とはじまります。天の国とは、わたしたちを信頼する神と、その信頼を受けた人々がそれに応えようとする、神と人とが応答し合うところに実現する、ということです。この応答に身をおいた「忠実な良い僕」たちを、主人は「一緒に喜んでくれ」と宴に招きます。この宴こそ天の国に他なりません。主人との交わりに生きるなら、わたしたちはこの宴へと迎えられるのです。神は「教会」という大きな財産をわたしたちに託しています。この事実に神の信頼を感じるのか、それとも恐れに囚われるのか。それぞれの力に応じてタラントンを委ねてくださっている神のその信頼を受け、応えて歩もうとする、天の国への道を歩んでまいりたいと願います。